※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真１）（表１）などと文中に記載し、右ページに（写真１）（表１）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. 211

【様式２】

エントリー学校名：静岡県浜松市立芳川北小学校

活動名：つながる学校図書館
―多機能化による開かれた学びへ―

解決すべき課題：

文部科学省の「これからの学校図書館活用の在り方等について」や研究校の実態調査、浜松市学校図書館部アンケート、公立図書館職員へのインタビューから、次のような課題があること明らかとなった。

① 学校図書館に関わる人々（教員・学校司書・ボランティア等）の取組のビジョンが共有できていないこと。
② 学校図書館活用の有用性が伝わっていないということ。
③ 学校図書館の業務がルーティーンワークとなる傾向があること。

チームとして、組織的な取組の中で学校図書館との距離を近づけていくことが求められる。

目標・方針：

学校図書館の課題を受け、学校図書館に関わる人々がプロジェクトを通してつながることで、チームとしてのビジョンを共有し、様々なアイデアを具体化していくことができるように、「つながる学校図書館プロジェクト」を構想。プロジェクトを進めるにあたっては、「学校は、大人になるための準備期間。つながりの中で子供たちを育み、子供たちが人生は楽しく、世の中は素敵な大人がたくさんいて、世界が広がっていることを学ぶ場に。」という取組のビジョンを共有。学校図書館に関わる人々がエンゲージメントを形成、プロジェクトを通してつながり、様々なアイデアを具体化していくことができるように多機能化を図る中で、開かれた学びの場を実現する。（図１・２）

活動内容：学校図書館がより身近な存在となるように、三つの取組を連動させた。（図３）

A. 人や本に出会う「ブックカフェ」

学校図書館が学びの拠点として、人や本、様々な世界とつながるツール。地域の人材を活用し、福祉や芸術など多彩な分野で活躍する人を学校に招き、ワークショップを行い、それに関連する本を紹介することを通して、子供たちの知的好奇心を高めたり、将来の自分の姿をイメージしたりすることにつなげる。

B. プラットフォームとしての「わくわくライブラリー」

掲示を通して本や人をつなぐボード。学校図書館での取組が可視化され、掲示が成長し、つながっていくプラットフォームのような役割を果たすことを目指す。

C. 学習と本をつなげる「動く図書館」

学校司書やボランティアにより学習に必要な本が廊下に届くシステム。「学びのマップ」を作成し６年間の系統性を踏まえ年間の学校のカリキュラムを可視化、共有することで見通しをもって、子供たちの資質・能力を育てていくことにつなげる。教育活動の全体像を可視化、図書の活用や地域人材活用で授業と連携。

活動の成果：成果としては次の三点が挙げられる。（図４・図５）

①学校図書館が人をつなげ、学校図書館との距離が近づいたこと。
②学校図書館が本や人とつながる場へと空間としても変容したこと。
③学校図書館が様々なアイデアで成長し続けていること。
※ラッキースター来館者調査や貸出冊数の増加、ブックカフェ参加人数等からより成長する図書館へと変容。

アピールポイント（アイディアや工夫）：

○「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、プロジェクトを構想。取組を連動させ、システムやボランティアの確立を図ることで、学校図書館を足掛かりに「チーム学校」としての連携の輪が広がったこと。
○図書館・地域人材活用の視点も取り入れた「学びのマップ」を作成し、カリキュラム・マネジメントの視点から、教育活動を展望・共有することで、教育活動を推進するとともに、キャリア教育にもつなげていること。
○学校図書館が教育課程を支援する機関として、地域や人、様々な世界とつながる「開かれた学び」を実現したこと。新聞にも取り上げていただき、取組が学校の文化として根付いてきていること。（図６）